



Yonago East Weekly

【生涯の友と共に、扉を開く】

- 創立/1968年4月24日 ●事務所/米子市西福原1-1-55 スマイルホテル米子 Tel (0859) 32-5531
- 例会日/水曜日12:30~13:30 ●例会場/ANAクラウンプラザホテル米子
米子市久米町53-2 Tel (0859) 36-1111
- 会長/西村正男 ●幹事/足立博俊 ●会報/面谷博紀

出席報告

会員数 107 名
 出席数 69 名 欠席数 33 名
 出席免除会員 5名 名 荒川(雄)君 杉原(弘)君
 新納君 佐田山君(有) 宮本(守)君
 出席率 68.57 %

ビジター

菊池捷男地区ガバナー、箱守英史地区庶務幹事
 (岡山西RC)
 メークアップ

今週のお祝

結婚記念日祝: 19日 小谷維夫君
スマイルBOX 21,0000 円 (293,000 円)
 夫人誕生祝: 種田(宏)君 結婚記念日祝: 種田(宏)君
 創立記念日祝: 伊藤(由)君、種田(宏)君
 鳥取県西部解体業協議会が米子市と「大規模災害時における協力協定」を結びました。
 7/25・26に執り行なわれた「大山ゴルフ開場記念コンペ」にて77のスコアで優勝しました。: 佐田山(有)君
 ガバナー公式訪問スマイルを頂きました。
 : 菊池捷男地区ガバナーより

会長挨拶

本日は、我が2690地区から菊池捷男ガバナーと随行の箱守英史様にお越しいただいております。菊池ガバナーには、後ほど所感を述べていただくことにしております。

本日の例会に菊池ガバナーにお越しいただけるのは、大変ありがたいことだと思っております。というのも、菊池ガバナーからスローガンについての文章等をいただいた頃は、ちょうどコロナの大変な時期でした。例会も中止、各種会合も控えるようになっており、果たしてお越しいただけるのかと心配しておりました。

菊池ガバナーは地区スローガンに、ロータリーというのはTogether一緒に集まることが根本だ、ということを力強く書いておられます。その言葉どおりにガバナー公式訪問の例会を開くことが出来たことが、ありがたく良いことだと思います。菊池ガバナーの所感を聞かせていただき、よい例会になるようにと思っております。



幹事報告

- 1.国際ロータリー第2690地区 地区ガバナー 菊池捷男 様、地区庶務幹事 箱守英史 様 来訪
- 2.第2グループガバナー補佐 稲田泰博 様より、7/15クラブ協議会のお礼状
- 3.備前RCと赤磐RCが合併し、備前RCとして6/30承認
- 4.地区大会信任状提出のお願い
- 5.令和2年7月豪雨災害被災者に対する義援金のお願い(その2) (RI第2700地区福岡)
- 6.2020-21年度クラブインターアクト委員長会議(書面)議事結果報告
- 7.(株)ホテルマネジメント米子 ANAクラウンプラザホテル米子より役員体制のお知らせ
- 8.例会変更のお知らせ
 米子南RC 8/3(月)休会 ビジター受付なし
 米子中央 8/6(木)移動例会 あり

次回プログラム

- 8/5 「理事抱負」 長棟 副会長・永島(正) 副幹事 種田(進) 無任所理事・宮本(守) 無任所理事・石部 無任所理事・杉本 奉仕プロジェクト理事・北沢 R財団理事・永島(清) 会場監督
 8/12 休会(定款により)



ロータリーは機会の扉を開く
ROTARY OPENS OPPORTUNITIES

<本日のプログラム>

菊池捷男 RI第2690地区ガバナー卓話



こんにちは。この会場へ入って最初に感じたこと、みなさんお若いですね。顔を拝見させていただくと活力がある。人数も多いですし女性も11名と多く非常に勢いがあるという印象を持ちました。

最初に自己紹介をさせていただきます。

- ・1943年(昭和18年)生まれ:平櫛田中のいう「鼻垂れ小僧」の年齢
- ・1970年 岡山弁護士会登録 弁護士歴50年:一能を磨く努力
- ・1982年 岡山西RC入会 ローター歴38年:一知半解
- ・2018-19年度 ガバナーノミニー:遅・鈍・周回遅れに気づく
- ・2019-20年度 地区ガバナーエレクト:多様性(ダイバーシティ)を知り、気が楽になる
- ・2020年1月 国際協議会出席:ロータリーが多様性の世界であることの面白さを実感
- ・同年7月 地区ガバナー:多様性を受け入れてくれているロータリアンの寛容のころを知る

2020年1月に国際協議会に出席しましたが、これはガバナーエレクトがガバナーになるために通過しなければならない重要な会議です。そこで最初にお会いしたのが、今年度のRI 会長のホルガー・クナークさんです。非常に見識の高い方で、ロータリーの友7・8月号の巻頭言を読んでいただくと、いかに素晴らしい方ということが分かるかと思えます。

ホルガーさんは講演の中で、まず”ロータリーの変化と進化”について述べておられます。今は変化の時代です。世界のフィルムメーカーだったコダックが2012年に突如倒産した例を挙げておられます。デジタルカメラの時代がこんなに早く来るとは思っていなかった、備えができていなかった、変化についていけなかったことが倒産の原因でした。RIも変化の時代に遅れてはならない、進化しなければなりません。ロータリーは3年に一度規定審議会を開きます。2016年と2019年の規定審議会で相当大きく変化しています。

1. RIの構成員:世界のロータリークラブ。ローターアクトクラブも会員として認めた。
2. RCの会員資格:職業人・専門職。奉仕をするだけの人も入会できるようになった。
3. RIの事務総長をCEO(最高経営責任者)にした。
RI会長は毎年変わるため経営は困難。名誉と権威の象徴。最長5年勤務できる事務総長に経営の実権を渡した。
4. ロータリアンの数:先進国で減少し、発展途上国で増加しているという現実
何が見えるか→奉仕への傾斜:奉仕をするためにローターアクトの力を借り、奉仕をする人をロータリーの会員とした。発展途上国で会員が増えているというのは合目的。

RI会長は進化のための方策として、次のような事項を推奨しています。

1. 戦略立案会議を開くこと:年に一回、5年先を見据えたそれぞれのクラブの姿を会議によって作ってほしい
2. それぞれのクラブにふさわしい会員の入会:生涯の友となるような人材
3. リーダーとなる女性会員の入会
4. 新クラブ:コロナのために出席が難しい、そういう人たちのためにも今こそいいクラブを作るなど
5. 魅力・環境:魅力あるクラブにするには環境問題にも目を向けてほしいというのがホルガーさんの希望

今年度のRI会長テーマは”Rotary Opens Opportunities”、日本語では”ロータリーは機会の扉を開く”となっています。ホルガーさんは、奉仕をする機会への扉、意義ある人生の機会の扉、ロータリアンや奉仕の受益者に機会の扉を開こう、ローターアクトや若い職業人にロータリーの扉を開こう、といっておられます。

RI会長テーマロゴマークの意味するところは、”ロータリーとは、無限の機会への招待である”と”いうことです。”私たちのあらゆる行動がどこかで誰かのために機会の扉を開いている”ということです。角度を変えてみると”私たちはあらゆるところから姿や行いを見られている”とも読むことができます。ロータリアンは人様から後ろ指をさされないよう、襟を正していないといけません。

またロータリーの機会の扉は、”感動の物語が通過する扉”といってもいいのではないかと思います。

本論に入りますが、ホルガー会長は基調講演の中で「大切なことは”Together”。楽しむための一番の方法は、大勢の会議であれ、奉仕プロジェクトや例会であれ、皆が集まること(Together)です」と述べておられ、一番核心となる言葉です。”Together”はロータリーのビジョン声明の冒頭の語句でもあります。集まるとどうなるか? ウィンストン・チャーチルが随想録に書いていることですが、相手国と軍事協定について話し合いをした際、合意に達せず決裂、最後に食事会を開いた、そのわずかの時間に軍事協定が成立するという奇跡が起こったのです。何が起こったのかはわかりませんが、相手の考えや立場を理解する、自分の立場や考え方も理解してもらい、そういう多様性こそが現在の世界の価値観だと思います。

- ・多様性はロータリーの中核的価値観の一つ
- ・多様性こそロータリーを素晴らしいものになっている(RI会長ホルガー・クナーク氏)
- ・寛容の心をもって多様性を受け入れよう(今上天皇)
- ・文化的多様性は、人類共通の遺産である(ユネスコ「文化的多様性に関する世界宣言」)

多様性を受け入れることを前提とした”Together”となる必要があります。ポール・ハリスは「ロータリーとは何か?と尋ねるとロータリアンの数だけ回答がある」と言っています。同じ考えの人は一人もいないのです。これが多様性であり、「寛容・誠実・善意が我々が求めるロータリーの全てだ」と述べています。

そこから私は地区のスローガンを”こころの扉を開こう”としました。多様性を受け入れる心の扉、皆さんの心をオープンにさせていただきたい、心の扉を開こうということのスローガンとして選ばせていただきました。

ご静聴ありがとうございました。

箱守英史地区庶務幹事より、本年10月17・18日に行われる地区大会のご紹介がありました。